

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100762		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム もくれん	ユニット名( 東 )	
所在地	茨城県小美玉市川戸1425-14		
自己評価作成日	平成30年5月8日	評価結果市町村受理日	平成30年9月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様方が、気軽に入出ししやすいような 玄関先やロビーなどの雰囲気作りを大切にしています。自然環境に恵まれた中でその時々季節を感じ その人らしさを大切に 安心して生活出来る楽しみ事を中心にした介護を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action\\_kouhou\\_detail\\_2013\\_022\\_kihon=rue&JigvosvoCd=0873100762-00&PrefCd=08&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kihon=rue&JigvosvoCd=0873100762-00&PrefCd=08&VersionCd=022)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内には六角蓮の鉢植のほか、たくさんの観葉植物や様々な工芸品がいたる所に飾られ、どこか懐かしく、落ち着いた雰囲気のある空間となっている。長く勤めている職員が多く、利用者と穏やかな関係が構築されている。利用者主体の生活を大切に、外出機会を増やしたり、地域のボランティアを受け入れるなど、利用者の意向に沿ったケアサービスの提供に努めている。運営母体は病院の他に、小規模多機能型施設・特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等近隣に複数施設を運営しており、利用者の健康状態に応じて24時間適切な医療や介護を提供できる環境が整備されているため、利用者や家族の安心に繋がっている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年7月10日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を、各ユニットごとに見やすい所に掲示し、更なる実践につなげている。	グループホームの特色や役割等を踏まえて作成された理念を玄関や各ユニット等に掲示し、職員間で十分に周知、理解されると共に日々の支援に活かされている。理念の中に謳っている地域住民との交流について会議の課題とする等、常に理念に沿った支援の意識付けと実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とのつながり、交流を大切にしている、行事や消防訓練への参加も徐々に参加してもらえるようになっている。	年2回地域で行われる缶拾い等の清掃活動に参加し、地域で暮らす住民の一員としての役割を果たすよう努めている。事業所の行事への参加を地域住民に呼びかける等、地域住民との交流を通して事業所への理解や協力を得られるような取り組みを実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣への外出や買い物などで認知症の方たちへの理解を深めてもらい利用するにあたって協力も得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回開かれるごとに、利用者状況や活動状況への取り組みを報告しそこでの意見や話し合いで出た結果をサービスに活かしている。	会議では、利用者の状況や行事、家族等へ実施した無記名アンケートの集計結果等を報告し、参加者から具体的なアドバイスや意見がもらえるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かと相談をしています、気軽に話が出来る関係作りを築くよう取り組んでいる。	生活保護受給の利用者の為に、市の担当職員が2ヶ月に1度来訪しており、連携を取りながら利用者の支援が続けられるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を行っている、身体拘束の弊害を認識し、施設内の職員間で十分話し合い問題意識など、共通の意識を持つようにしている。	管理者や職員、統括等が構成メンバーとなり、第1回身体拘束等の適正化委員会を開いた。朝礼や日々の会話で、管理者が職員に対し身体拘束のリスクについて話す等、常日頃より身体拘束をしない支援についての意識付けを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない、施設内での虐待もまた、見過ごされる事のないよう、徹底し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、制度の内容の理解、学ぶ機会を持ち、みんなで話し合い、活かしていけるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な時間と契約書に添っての説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由ノート、意見箱を玄関横に設け、意見・要望など気が付いた点を気軽に記入してもらう。	事業所の玄関等数ヶ所に、自由ノートや意見箱を設置し、利用者や家族等が自由に意見や要望等を記入出来るような取り組みを続けている。前回の外部評価の結果を基に、家族等へ無記名アンケートを実施し、集計結果を運営推進会議で報告する等、利用者や家族等の意見を引き出し汲み取れるような取り組みを実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や色々な提案を気軽に話を出来るよう、こちらからの声掛けや機会を作るようにしている。	勤続年数の長い職員が多く、気心が知れており、色々な面でコミュニケーションが取りやすく働きやすい雰囲気作りをしている。管理者は職員の意見や要望を聞き、勤務体制の工夫をする等、職員の負担が減るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院側で全て行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の研修を受ける機会を取り、介護技術や質の向上となるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や他職種の方々との勉強会や交流などを通じて、向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知らない所での生活の不安は、想像以上のものかと思われます。心配事・要望に耳を傾け信頼関係づくりに努力している。情報提供所や家族などから直接情報を得るようにしている。〔趣味・好物・職業〕		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約には、丁寧に時間を取り説明している。家族からの要望・困りごとなどをよく聞き何かあれば気軽に話してもらえる雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を生活の中で観察し、家族からの要望などを取り入れながら、今、この人が何を求めているのかを見極め対応にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と苦楽を共にし、一緒に暮らし支えあいながら関係を深めていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら、気軽に面会に来てもらえるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや友人たちの面会や場所との関係が継続出来るよう支援している。	入居時に、利用者や家族等から得た生活歴等の情報をアセスメントシートに記載し、職員間で共有し、利用者の日々の支援等に取り組んでいる。利用者の友人が来訪した際には、気兼ねなくゆっくりと過ごしてもらおう等、利用者の馴染みの関係が継続出来るよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士一人一人が孤立せず、所々に長椅子を置いたりしている。職員いも気軽に声掛けでき、相談出来る場所作りとなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約は終了しても、今までとあまり変わらず、電話や近くに来た際には、気軽に声掛けてもらえるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方と、外出や外食に出たり、居室でのんびり語り合う方と過ごし方は、様々である。	職員は日々の暮らしの中で利用者が発する言葉や表情の変化、仕草等から思いや意向等を汲み取るように努めている。汲み取った利用者の思い等は、各ユニット毎に設けられた申し送りノートに記載し、共有する取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや、生活環境、サービス利用など家族、本人、情報提供書などから把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の健康状態、出来る出来ないことの参加の有無を常に観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員と本人、家族とで意見交換し本人の望む暮らしとなるよう、介護計画を作成している。	利用者や家族等、医師、看護師および担当者会議における職員等からの情報や、意見を踏まえた介護計画書を作成し、家族等の来訪時に十分に説明し理解と確認を得る取り組みを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事などを、ケース記録に記入し、職員間でこの情報を共有しながら実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や訴えをよく聞き、必要に応じて支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々、小中高校、ボランティアなどと協力しながら、安全でその人らしい穏やかな生活が出来るよう支援しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、今まで同様のかかりつけ医の受診が受けられるよう支援しています。	かかりつけ医の受診は家族等の付き添いを基本としているが、家族等の付き添いが困難な場合は、職員が付き添い、かかりつけ医の受診が継続出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、情報や気づきなどを、外来受診時や訪問看護師に伝えて支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との情報交換、連絡を密にとり、安心して治療が受けられるよう病院側との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、家族の方と十分な話し合いを行い説明している。	重度化・看取りに関する説明及び同意書を作成しており、入居時に、看取りをしない事業所である事を利用者や家族等に説明し、理解を得た上で、書面で同意を得る取り組みを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、初期対応や場合によっては、応急処置がとれるよう訓練を入れ実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している、近所の方々の参加もあり地域との協力体制を今後も大切にしていきたい。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を行い、前年度の避難訓練時には、消防署の協力の下、地域住民の参加を得て、煙体験を行っている。避難訓練後に消防署職員からの講評やアドバイスを写得書面に記載し記録として残しているが、反省会を行うまでには至っていない。	避難訓練を実施後に反省点等話し合い、改善すべき課題を見つけて書面に残す等、次回の訓練に活かせるような取り組みを期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆったりとした時間の中で、一人ひとりの人格を傷つけない言葉かけに気を付けて対応している。	尊厳を損なわないよう配慮した言葉使いや接し方で、利用者の日々の暮らしを支援している。個人情報に関する同意書があるが、肖像権に関しての同意書を得るまでには至っていない。また、人権尊重等に関する研修を行うまでには至っていない。	プライバシー保護に関する研修を行い職員間で周知共有する取り組みの実践を期待する。また、肖像権に関して、利用者や家族等に十分に説明し書面上で詳細な確認や同意を得る取り組みを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人それぞれが自分の思いや希望を表すことが出来るよう、時間をゆっくり取り待つ事の大切さを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの特徴を把握し、入居者のペースに添って見守りながら一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の床屋さんが入っています、ヘアースタイルも自由であり服装も好みのものを着ている、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒にしたり、献立表も見やすい所に掲示している。ご近所さんからの頂き物をみんなで下ごしらえし食事が楽しいものとなるよう工夫している。	利用者はそれぞれの能力に応じて野菜を収穫したり、下ごしらえをするなど、役割を感じながら、日々の食事が楽しめるようにしている。外食や行事食の提供もしながら、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表・食事摂取量・水分管理表などにて毎日チェックし記録している、一人ひとりの健康状態や体重増減などを職員が把握している、食生活に対する支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後にうがい、歯磨きをしています、出来ない人への声掛け、介助が入っている、かぜ予防のため緑茶うがいを取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくおむつを使用しない事を目標にして、排泄パターン、定時でのトイレ誘導や兆候を見逃さないよう見守ると共に、自立に向けての支援をしている。	排泄チェック表や個人記録を参考にしたり、利用者の仕草等から排泄のサインをキャッチした場合は、尊厳に配慮した声かけやトイレ誘導を行う等、利用者の排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮して、水分量、食事の工夫や便器に座ってもらうことを習慣づけていく事に取り組んでいる、場合によっては、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は、職員の都合となっている、体調が悪かったり、外出等で入れない場合は、翌日の入浴が入れるように声掛けしている。	入浴時間は、週に2回午前中に設けている。季節毎にゆず湯、菖蒲湯、様々な入浴剤等を用いて、利用者が心地よい環境で入浴出来るような工夫をしている。入浴に使用したタオル等を洗濯後に畳む事を日課にする等、入浴に関する作業への参加も、利用者の役割や楽しみの一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムづくりをし、ボール投げやラジオ体操、散歩など活動の場を設けている、少しの時間ではあるが午睡の時間をとり気分よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを常に見ることができる、薬の目的や用法・用量についても理解し服薬の支援と症状の変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族などから昔の事を聞いたりして、その人らしさが生活の中で活かしていけるよう引き出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の面会時には、なるべく一緒に出掛けられるよう普段から家族の方と連絡を取るようになっている。	風景や外気浴を楽しみながら近隣を散歩したり、ボランティアの買い物サポーターの協力で、近所のコンビニエンスストアや衣料品店等へ出かけて買い物をする等、利用者が日々の外出を楽しめるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、本人の希望や力量に応じて行っている、職員は、買い物する楽しさ、レジでの精算が大切かを理解し、買物をする機会も増えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は自由に使うことができる、年賀状や友人への手紙の投函や各棟の固定電話の取次ぎや掛けるときの支援も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースもゆったりとした雰囲気作りとなっている、職員の話す声のトーンにも配慮し、安心して楽しく暮らしていけるよう工夫している。	事業所内は全てバリアフリーになっており、車いす使用の入居者が浴室やトイレを利用する際にも移動しやすい造りになっている。居室の前に続く広々とした廊下は、天井の高窓から日差しが射し込み、明るい空間になっている。事業所の敷地内は清掃管理が行き届いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーや玄関先に長椅子やベンチ、テーブルを置いている、他の方々との交流もあり、自由に過ごせる時間、居場所の工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛着のあるものや近所の商店のカレンダーを居室に飾ったりして、居心地よく過ごせる場所となっている。	利用者が馴染みの品物や電化製品、家族等の写真、手作りの品、趣味の楽器等を持ち込み、自分らしい空間で居心地よく暮らせるよう支援している。自由時間には、居室でくつろいだりキーボード演奏をする等、利用者一人ひとりが自分の時間を有意義に過ごし楽しめるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたむ人、テーブル拭き、ゴミ箱折などそれぞれができることへの出番、楽しみ方を見出している。			

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 グループホームもくれん

作成日 平成 30年 9月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	年2回の避難訓練を行い訓練後に消防署員から講評やアドバイスを受けている、書面に記載し記録として残しているが、反省会を行っていない。	反省会を今後は、実施していきけるようにする。	反省会を開くことによって職員から出た事や改善すべき課題を書面に残し次回からの訓練に活かしていきたい。	3ヶ月
2	14	・人権尊重に関する研修を行うまでに至っていない。 ・個人情報に関する同意書があるが肖像権に関して同意書を作成していない。	・研修を行う(プライバシー保護) ・利用者や家族等に十分説明し書面に残す。	・研修を行う。 ・肖像権に関して家族によく説明し確認同意を得るよう取り組んでいく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。